

## 第96回

## SEKISUI VIETNAM



## 事業内容:

- ・工業用管材・樹脂バルブの販売
- ・水インフラ関連資材の販売
- ・住インフラ産業用配管製品の販売
- ・OEM製品の品質管理

## ハノイ本社

住所: Room1414, Corner Stone Building, 16 Phan Chu Trinh St, Hoan Kiem District, Hanoi City  
TEL: +84-24-3939-2677 FAX: +84-24-3939-2678

## ホーチミン駐在事務所

住所: ROOM1123, 11th Floor, 37 Ton Duc Thang Street, Ben Nghe Ward, Dist 1, Ho Chi Minh City  
TEL: +84-28-3910-1677 FAX: +84-28-3910-1678  
URL: [www.sekisuichemical.com/sekisuivietnam/](http://www.sekisuichemical.com/sekisuivietnam/)

積水化学工業株式会社は、住宅、住生活サービス、リフォーム、不動産を取り扱う住宅カンパニー(事業体)、エレクトロニクス、ライフサイエンス、車両・輸送、産業向けの製品を取り扱う高機能プラスチックカンパニー、そして戸建、公共、建築、工場・プラント向けの環境・ライフカンパニーの3つのカンパニーを中心とした体制で、多種多様な事業を展開している企業です。2014年12月には、ハノイ市に積水グループとしてベトナム初の拠点であるSEKISUI VIETNAMを設立し、2017年10月にはホーチミン市に駐在事務所を設立しました。

ベトナムでは、積水グループのベトナム拠点として、水インフラ、住宅インフラ関連資材を中心に幅広い製品を取り扱っています。

また、ベトナムの大手プラスチック製造メーカーであるTIEN PHONG PLASTIC社への資本参加を行うなど、積極的にベトナムでのビジネス展開を進めています。今回は、SEKISUI VIETNAMの小林社長にお話をお伺いしてきました。

## ●ベトナム進出の経緯を教えてください。

今から11年前の2007年頃に、ASEANでの事業展開を検討することになりました。その際、ASEAN各国の市場調査を行ったのですが、ASEAN各国の中でベトナムにだけは、日系は勿論、欧米系も含めて弊社の競合となる企業が1社も進出しておらず、ベトナム企業しか存在していないことが分かりました。

そこで、更に詳しくベトナムの状況を調査してみたところ、順調に経済成長を遂げていることや、親日な国民性、日本からのODA案件が多数実施されているなど、弊社の取り扱う高品質・高性能な製品の将来的な需要が十分に見込める市場であること、更に将来的にASEAN各国への販売展開を考えた場合、利便性の高い立地であることなどが分かり、ベトナムでのビジネス展開を検討するようになりました。

但し、同業の外資系企業がまだ一社も進出していないことには、理由となる障壁が存

在しているはずで、安易に現地法人を設立せずに、じっくりとベトナムの市場調査を行い、将来的な事業可能性を模索しました。

その中で、競合商品を製造しているベトナム企業にも数多く訪問し、実際に製造している製品の品質なども確認していきました。当時のベトナムでは、まだ、日本のような品質の高い製品は殆ど製造されておらず、安からう悪からうが当たり前の世界として横行していた状況でした。ただ、そんな中でも、北部と南部にそれぞれ、大手の樹脂成型メーカーが存在しており、今後のベトナムの発展に貢献すべくより高品質な製品を製造しようと取り組んでいました。

中でも、北部に本社を置くTIEN PHONG PLASTICは、経営幹部の考え方が、弊社と親和性が高いと判断して、まずは、TIEN PHONG PLASTIC社との事業提携の形からベトナムでのビジネス展開を進めることにしました。

当初は、積水化学の設備を貸与し、技術

指導を行うことで、ベトナムではまだ製造されていなかった高品質な樹脂製品の製造を行いました。この提携が上手く進んだこともあり、よりベトナムマーケットでの積水グループのブランド力を向上させるため、2014年12月、ハノイ市に現地法人であるSEKISUI VIETNAMを設立しました。

最初にハノイ市に進出したのは、ハノイ市にベトナム政府の主要機関が集中しており、日本大使館、JICAベトナム事務所といった日本の公的機関の本部も所在しており、ODA関連のインフラ開発案件への事業展開に有利な立地であると判断したことが主な理由です。

その後、民間の建設ラッシュが進み、ホーチミン市を中心とした南部地域で民間の開発案件が増加したため、2017年10月にホーチミン市に駐在事務所を設立し、現在では、ハノイ市とホーチミン市の双方で活動を行っています。

### ●TIEN PHONG PLASTICをパートナーに選んだ理由は何ですか？

まず、企業としてこれまで以上に成長していきたいという情熱を感じたことです。日本の技術、生産管理、品質管理などを積極的に学んで、より技術力の高い製品を製造していきたいという強い気持ちを経営陣とのヒアリングで感じることが出来ました。

また、欧米志向ではなく、日本の家族主義的な社風が存在していることも魅力でした。日本でも今は、欧米型の合理主義的な社風が増えてきましたが、昔の日本企業の創業当時のような、社員が一つの家族として結束し一丸となって仕事をしていくんだという、社風を感じたこともこの会社との事業提携を進めようと考えた大きな要因の一つです。

また、今後のベトナムビジネスの展開においては、パートナー企業の協力が必要不可欠であると考えておりますので、2017年には、TIEN PHONG PLASTICの子会社であるビンズン省のTIEN PHONG SOUTH JOINT STOCK COMPANYの発行済み株式の25.3%を取得し、資本参加を行いました。

### ●御社の事業内容を教えてください。

弊社は、2014年の設立当時は、SEKISUI VIETNAM PIPE SOLUTIONS COMPANYという社名で、名前の通り水インフラ分野を対象とした配管、バルブなどの販売を行う企業として設立されました。ただ、ベトナムには、SEKISUIグループで進出している企業が当社しかないため、SEKISUIグループ全体のベトナムにおける代表的な立場として、SEKISUIグループのあらゆる製品のベトナム展開を行うべきとなり、社名をSEKISUI VIETNAMに変更しました。その為、基本的には、日本の積水化学が取り扱っている製品は、全て弊社で取り扱う可能性があります。現時点では、ベトナムでは樹脂パイプがメインではありますが、他にも樹脂製の雨水貯留槽、火事の延焼を防ぐ熱膨張耐火材、樹脂製人工木材、マスキングテープ、変成シリコンなど様々な製品を販売しています。

また、ベトナム国内の地下には、下水道などの管路が沢山存在していますが、老朽化が進んでおり、放置しておく危険性がありますので、そういった管路に対して、地面を掘り起こさずに内部を補強修繕出来る積水化学独自の技術である「非開削管路更生 (SPR) 工法」を用いての補修作業を試験施工したりしています。

弊社で取り扱っている製品は、主に日本、台湾及び、ベトナムの協力工場で製造された製品です。一般的な樹脂パイプなどは、主にベトナム製を提案し、特殊な薬品用パイプなど高度な技術が必要となる製品に関しては、日本製を提案するなど状況に応じて様々な製品をご提案できるのが弊社の強みとなっています。

主なお客様は、ゼネコン、サブコン、設計会社、水関連エンジニアリング企業となっており、ベトナム企業も徐々に増えてきています。また、日系、ベトナム系の販売代理店を通じての販売も行っています。

### ●社員の評価について教えてください。

現在、私がハノイとホーチミンの両拠点を管理しており、それぞれの拠点に日本人が1名常駐していますので、日本人は3名体制になります。ベトナム人は、ハノイとホーチミンにそれぞれ営業が1名おり、更にハノイ本社には、総務経理担当が2名いますので、合計で7名体制となっています。2018年は、更に2,3名の営業員を増員したいと考えています。

弊社では、営業スタッフ採用の際は、日本語能力を重視し、日本語能力試験N1合格者のみを選考対象として募集をかけ、その中から採用を行いました。

ベトナム人スタッフは、真面目で優秀ですが、日本人とは少し違う面も見られます。例えば、人と人の繋がりにしても、最初は中々信用しなけれど、一度信用すればとことん信頼するといった面や、積極的に営業に取り組むけれど、脈が無いと感じたらあきらめるのも早い点等は、ベトナム人らしい特徴だと思っています。

ベトナム人社員を長期的な展望に沿って教育を行い、日本人と同等の仕事が出来るように育てていき、最終的にはベトナム人がベトナム法人の社長を務めてくれるのが理想だと思っています。その為に、普段から積極的にコミュニケーションを図ってお互いの思っていることを遠慮なく言い合える関係づくりを重視しています。

### ●ベトナムのビジネスでお困りの点はありますか？

配管の場合、通常それぞれの国によって標準の規格というのがあります。例えば、イギリスならBS規格、台湾ならASTM規格、日本ならJIS規格といった具合で国内の規格は、基本的に統一されています。ところがベトナムの場合、ベトナムの規格であるTCVN以外にも、ISO、JIS、ASTMなど様々な規格が、各現場ごとに採用されており、全く統一されていません。その為、強度の薬品耐性が必要な特殊なパイプは日本製のJIS規格、外構部分の普通のパイプはベトナム製のTCVN規格といったように製品ごとに規格を分けて提案する必要があります。

また、法務、税務に係る法令の頻繁な改正には、正直困っています。基本的に法令順守を当然の事としておりますが、法令の通達日と施行日がずれている、法令は出たが、施行細則が無く具体的な実務が明確でないなど法令を守ろうとすればするほど、難しくなるというジレンマがあります。また、新しい法令が発行しても役所の担当者がそれを知らずに現場が混乱するといったこともありますので、困っています。

### ●今後の事業展開について教えてください。

我々は、ベトナムにおいてベトナム人の皆さんの暮らしを良くすることに貢献していきたいと考えています。これまでの安かろう悪かろうの世界ではなく、消費者にとって便利なもの、安全なもの、長持ちする高品質なものを提供していけるようにしたいと考えています。

その為にも、TIEN PHONG PLASTIC



との協力関係をより発展させ、ベトナムでより品質の高い製品が製造できる体制を整えていきたいと考えています。

また、ベトナム国内においてSEKISUIブランドの知名度を向上させるため、TIEN PHONG PLASTICと協力しながら、展示会への出展、各地方でのセミナーなどを積極的に行っていきたくと考えています。

また、ベトナムを拠点として、ASEAN各国をはじめ、インドや中東にもベトナム製のパイプの販売を積極的に展開していきたいと考えています。

ベトナムで積水化学の製品をお探しであれば、是非、弊社にお声掛けください。

ありがとうございました。